



平成30年7月20日発行

ほたるっ子

ファミリー通信 第3号

文責：校長 野原光弘

平成30年度磐梯一小 学校だより

すごいぞ！すごいぞ！自転車部 福島県大会 第3位入賞！

日頃よりPTA活動をはじめ、磐梯一小の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。7月7日（土）、本宮市総合体育館を会場に行われました「交通安全子ども自転車福島県大会」におきまして、**本校自転車部が上記入賞を果たしました。**また、メンバーの中島愛理さんは学科試験で全問正解し、「満点賞」を獲得しました。北会津地区大会が廃止された中、一発県大会のプレッシャーに打ち勝ち、見事、練習の成果を発揮することができました。応援された皆様には、お休みの日に遠方会場までお越しいただき、心より感謝申し上げます。

なお、今回の入賞について、7月17日（火）に磐梯町役場を訪問し、**町長様・教育長様に報告会**を開かせていただきました。

町長さん
教育長さんと
記念撮影
(報告会にて)



自転車部入賞メンバー
(左から)

6年	鈴木	愛奈さん
	中島	愛理さん
	大竹	琉偉さん
5年	伊藤	光輝さん

自転車部顧問

6年担任	岩橋	健紀
3年担任	立川	和貴

キラッと光るほたるっ子！ 「合唱部・水泳部も練習開始」



放課後の練習は
自分との闘い
：水泳部

自転車部の活躍につづけ、と本校 **合唱部（4年生以上の希望者：16名）と水泳部（5・6年生全員：40名）**も夏休みにかけての練習を続けています。女子の中にはその両方を掛け持ちしている児童もあり、充実した放課後を過ごしています

水泳部は来週7月24日（火）にふれあいセンタープールにて開催される「磐梯町小学校水泳交歓会」での自己記録更新に向けて、

合唱部は12月9日（日）に予定されている「声楽アンサンブル

ルコンテスト」での入賞に向けて、計画的に練習に取り組んでいます。

夏休み中も、練習のために登校する機会が増えるものと思いますが、安全な登下校と一人一人の持てる力を最大限に伸ばすために、ご配慮とご協力のほど、よろしくお願いします。

5・6年生は水泳部参加のため、
4年生だけで「おなかの体操」：合唱部



夏休みこそチャンスの時

家庭学習のすすめ 連載その2

6月の新聞記事（福島民報）より

明日からの37日間、夏季休業といたします。「いつもはできないこと」「やってみたい勉強」「読めなかった本」など、ご家族とともにチャレンジの37日間にしていいただければと考えております。

今回は、6月の福島民報新聞の記事から、家庭での取組に関する興味深い記事を紹介いたします。家庭での小さな積み重ねの大切さとともに、文中の「非認知スキル」という言葉がたいへん気になるところです。夏休み中の家庭での取組の参考にしていただければと思います。

福 島 民 報

本や新聞親しみ 規則正しい生活

好成績に

文科省分析

文部科学省は二十七日、全国学力テストを基にした調査分析を公表した。日頃から本や新聞に親しむことや、規則正しい生活を促している家庭の子どもの親の収入や学力の傾向があり、子どもの自制心や意欲の強さと学力の間に緩やかな関係性があることも浮かんできた。家庭の経済状況などによる子どもの学力格差が指摘される中、取り組み次第で不利を克服できる可

取り組み次第で 不利克服

能性が示された形だ。前回の二〇一三年度調査と同様、親の収入や学力が高いほど学力が高いとの結果も判明。ただ、今回の調査で格差縮小につながる変化は見られなかった。文科省の担当者は「学力向上に有効な取

り組みを家庭や学校で粘り強く続け底上げを図っていく」としている。一七年度四月に小学六年と中学三年を対象に国語、算数・数学で実施した学力の結果と、抽出校の保護者約十四万人へのアンケートを分析。保護者の年収や学歴といった家庭の社会・経済的背景を指標化して四階層に分け、テストの平均正答率を比べた。

一方、最も低い層の中で学力が全体の上位25%に入っただけの子どもの家庭を分析すると「小さいころ絵本の読み聞かせをした」「本や新聞を読むよう勧める」「毎朝朝食を食べさせる」「計画的に勉強を促す」などの質問に「当てはまる」と回答した割合が、上位でない家庭より5・8〜12・0%高かった。自制心や意欲、忍耐力を示す「非認知スキル」と呼ばれる子どもの能力と正答率の高さには緩やかな相関関係があり、中三よりも小六の方に強く現れた。



【「非認知スキル」とは】

「知能」とは関係なく、幼児期から児童期に親との関係の中で育まれる「協調性」「粘り強さ」「忍耐力」「計画性」「意欲」など個人の特性のことで、別名「心の知能指数」などとも呼ばれます。本校で進めている「家読（うちどく）週間」にあるように、子どもと一緒に本を読んだり、子どもの隣で一緒に勉強（仕事）をしたり、ご家族がお子さんと工夫して関わることで伸ばすことができるものと言われています。